

1 研究主題

互いに高め合う児童の育成
～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり～

2 研究主題設定の理由

社会が著しく変化する現代においては、児童が自己実現を目指して学び続けていけるようにしていくことや主体的に社会に参画して未来を自分たちの手で創造していけるようにしていくことが必要だと言われている。本校では、「人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する」を学校目標として、自ら学ぶ児童、満足できる学校、自分から学ぶ教師、主体的・対話的で深い学びのある授業を目指し、教育活動を展開している。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、対話指導や授業づくりが計画通りに実施できなかった中で、今年度も引き続き『互いに高め合う児童の育成～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり～』を進めたい。基礎・基本の定着に努めるとともに、算数科を中心とした課題づくりに引き続き取り組んでいきたい。

3 主題のとらえ方

「互いに高め合う」とは、児童が自他を尊重しながら、協同して課題を解決していこうという姿であり、そのために必要なのが「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりであると考え。そのための授業改善として、中央教育審議会「答申」より、次のように求められている。

- ①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

これらの3つの視点に立って、児童の学びの過程の質を向上させることで、互いに高め合う児童の育成につながるものとする。

4 研究仮説

- (1) 全教育活動において、学習の基礎・基本の定着に関する指導を行えば、児童の学びの幅を広げることになり、互いに高め合う児童が育つであろう。
- (2) 全授業において、「質の高い対話」を目指した対話指導を行えば、児童の伝えたい思いや知りたい思いを表現することになり、互いに高め合う児童が育つであろう。
- (3) 「深い学び」に焦点化した授業において、学ぶ意欲を引き出す課題の設定を行えば、児童が課題とゴールを意識して学習に取り組むこととなり、互いに高め合う児童が育つであろう。

5 研究内容

(1) 基礎・基本の定着

①学習の基礎・基本の定着を図る。

- ・朝の学習の時間に、ドリルやプリントを使った復習をする。担任以外の教員も指導にあたり、児童の学びの支援をする。
- ・チャレンジ週間の最終日に確認テストを行い、学習の定着の様子を把握する。
- ・基礎・基本を身につけることによって、授業の中で、児童がこれまでに学んだ学習をもとに、学びを広げられるようにする。

②家庭学習の充実を図る。

- ・家庭学習の手引きを作成し、学年×15分を目安に自主的に家庭学習に取り組めるようにする。
- ・チャレンジ週間に、保護者から児童への励ましのコメントをもらうことで、家庭学習への意欲をもたせる。
- ・自主学習を紹介し合うスペースを作り、互いに高め合えるようにする。
- ・学年だよりで、児童の取り組みを紹介する。

(2) 「質の高い対話」を目指した対話指導

①「聴く力」「訊く（尋ねる）力」を育てる。

- ・朝の会の中にペアトークを取り入れ、対話のレベルアップを図る。
- ・「分からない」ことを見つけながら聴いたり、本当に分かるまでどのように訊いたりするかを指導するために、低・中・高学年別のレベルアップカードを児童に配付し、話し合い活動や、授業中の対話に困ったときにすぐに確認できるようにする。また、教室には「話の聴きかた」「友だちへの訊きかた」を掲示する。

レベルアップカードの活用

ききかた レベルアップカード（1・2年）

名前（ ）

○友だちの話をうろちながら、よく。（ともだちのはなしを、いっしょうけんめい、よく。）

・「うん、うん」
・「へーっ」
・「ふーん」
・「そうなんだ」
・「なるほど」
・「いいね」
・「それで」

○話をききながら、わんじだことをいったり、しつもんしたりする。

かんじだこと しつもんする

・「おもしろい。」
・「すごい。」
・「へーっ」
・「ふーん」
・「さしき。」
・「へーっ」
・「ふーん」
・「それで」

・「えっ、どういうこと？」
・「どうして？」
・「どうしたの？」
・「それから、どうしたの？」
・「どれくらい？」

○さきに、書いてみたいことをしつもんする。

・「～のころ、もう1かい、いって」
・「～のころ、もっとくわしく、いって」

ききかた レベルアップカード（3・4年）

名前（ ）

○友だちの話をうろちながら、よく。（友だちの話にきょうみをもって聴く。）

・「うん、うん」
・「へーっ」
・「ふーん」
・「そうなんだ」
・「なるほど」
・「いいね」

○自分がきょうみをもったことや感じたことについて、質問する。

・「～のころ、もう1回、書いて」「～のころ、もっとくわしく書いて」
・「えっ、どういうこと？」「それって、どういうこと？」
・「どうして、そう思ったの？」
・「それから、どうしたの？」
・「そのとき、どう思った？」「そのとき、どんな気持ちになった？」

○話をきいたあと、感じたことを伝える。

・「～のころが、おもしろい。」
・「～のころが、すごい。」
・「～のころが、ふしぎでした。」
・「～のころが、かわかった。」
・「～のころが、かなしかった。」
・「～のころが、つらかった。」
・「～のころは、自分もそういうことがあったと思います。」

聴きかた・訊きかた レベルアップカード（5・6年）

名前（ ）

○友だちの話をイメージしながら聴く。（友だちの話に興味をもって聴く。）

・「うん、うん」（うなづきながら）
・「へーっ」
・「ふーん」
・「そうなんだ」「そうなのかな？」
・「なるほど」
・「いいね」

○相手にもっと話したいことを意識して、相手の話を引き出すような質問をする。

・「～のころ、（おもしろかった）から、もう1回書いて」
・「～のころ、～だったから、もっとくわしく書いて」
・「たとえは、どういうこと？」
・「えっ、どういうこと？」「それって、どういうこと？」
・「どうして（なぜ）、そう思ったの？」
・「それから、どうしたの？」
・「そのとき、どう思った？」「そのとき、どんな気持ちになった？」
・「それって、～ってこと？」
・「ようすに（つまり）、～ってこと？」

○話をきいたあと、感じたことを伝える。

・「～のころが、おもしろい。」
・「～のころが、すごい。」
・「～のころが、ふしぎでした。」
・「～のころが、かわかった。」
・「～のころが、かなしかった。」
・「～のころが、つらかった。」
・「～のころは、自分もそういう経験があったと思います。」

き
話の聴きかた
～「深い学び」のために～
～毎日レベルアップ！～

○聴きながら、「わからない」を見つける。

- ・「今の言葉、わからないな」
- ・「そう考えたわけをききたいな」
- ・「どこからそう考えたのかな」
- ・「たとえば、どういうことなのかな」
- ・「ようするに、どういうことなのかな」
- ・「一番言いたいことは何だろう」

○聴きながら心の中で「おしゃべり」をする。

- ・「なるほど」「いいね」
- ・「えっ、どういうこと？」
- ・「ちょっと、（自分の考えと）ちがうなあ」

○聴いたあと、その話についての感想が言えるようにする。

- ・「今の〇〇さんの考えどう思う？」ときかれたときに、
話がでる。

○聴いているとき、友だちから話を引き出す努力をする。

- ・自分が話すつもりでいっしょに言葉を考える。

き
友だちへの訊きかた
～「深い学び」のために～

○「ここわからないんだけど・・・」 → わからないことをその場できく

○「もう一回言ってくれる？」

○「それってどういうこと？」 → 意味をきく

○「なぜ、そう言えるの？」 → ほんとうの根拠、理由をきく

○「どこから、そう考えたの？」

○「たとえば？」 → 具体的な例をきく

○「もう少しかんたんな言葉で書いて」 → 言いかえをきく

○「たとえていうと～みたいなこと？」 → 聴き手のイメージの正しさをきく

○「ようするに～ってこと？」 → 聴き手の要約の正しさをきく

②対話による学び合いの場を授業の中に設定する。

- ・学習活動の中で、友達と関わり合いながら活動する場面、相手に考えを説明する場面、教科書をもう一度読むことで課題解決につながる場面など、対話を必要とする状況を意図的に作り出すようにする。

（３）学ぶ意欲を引き出す課題の設定

①適切な難易度、必然性のある課題を設定する。

- ・算数科において、学期ごとに「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす授業を決める。
- ・授業をデザインする際に、「1人では解決が難しいけれども、仲間と力を合わせれば解決できるかもしれないと思える課題」や、「学ぶことで生活につながる課題」を設定する。

②学習内容に合った振り返りができるようにする。

- ・授業の終わりには、活動内容に合わせて振り返りを行う。課題を解いたり、学習内容を言葉でまとめたり、授業で学んだことを書いたりして振り返る。低・中・高学年で、振り返りの視点を明確化して教室に掲示する。
- ・深い学びにつなげるために「自己の変容」がわかる振り返りができるようにする。「自己の変容」とは、「自分の考えが初めと違うものになった」だけでなく、「思いや考えを確かめることができた」「思いや考えが広がった」ことであることを、教師も児童も理解し、変容の様子を振り返りで書けるようにする。書く際には、ふり返しレベルアップカードを活用する。

ふりかえりの視点

ふりかえり 1・2年生

- ① もんだいをとく
- ② わかったこと
- ③ じぶんやともだちのかんがえのよかったところ
- ④ まなびあいで
じぶんのがんばり
- ⑤ もっとがくしゅうしたいこと

ふりかえり 3・4年生

- ① もんだいをとく
- ② 自分や友だちの考えのよかったところ
- ③ 学び合いを通して
自分の考えがかわったこと
- ④ もっと学習したいこと
- ⑤ 生活や学習で使いたいこと

ふりかえり 5・6年生

- ① 問題をとく
- ② 自分や友だちの考えのよかったところ
- ③ 自分の考えが変わったり、
深まったりしたこと
- ④ もっと学習したいこと
- ⑤ 生活や学習で役立てたいこと

ふりかえりレベルアップカードの活用

ふりかえり レベルアップカード 1・2年生

なまえ ()

① わかったこと

- ・○○は、～ということがわかった。
- ・まじはわかったけれど、～してみたら、～ということがわかった。

② じぶんやともだちのかんがえのよかったところ

- ・わたしのかんがえは～だけれど、○○さんのかんがえを聞いて、なるほどと思った。
- ・わたしの～というかんがえが、とまどきにつけてよかった。
- ・○○さんの、～というかんがえは、じぶんでは気づかなかったもので、教えてもらってよかった。

③ まなびあいで じぶんのがんばり

- ・ペアワークで～をがんばった。
- ・～がわかったから、とまどきに書いて、で書こうとがんばった。
- ・とまどきが～に変わっていたから、がんばって直してみたら。

④ もっとがくしゅうしたいこと

- ・せうのくくしゅうで～を○○君、～でやってみよう。
- ・せうの～を～について、もっとしるべたい (ひんぎしるべたい)。

ふりかえり レベルアップカード 3・4年生

名前 ()

① 自分や友だちの考えのよかったところ

- ・自分、～と書いていたけれど、○○さんは、～と書いていて、なるほどと思った。
- ・自分の～という考えが、友だちに伝わってよかった。
- ・○○さんの、～という考えは、自分では気づかなかったもので、教えてもらってよかった。

② 自分の考えがかわったこと

- ・～のところがよくわかったけれど、～したら、～でわかった。
- ・まじは、～と書いていたけれど、○○さんの考えを聞いて、～と書きがかわった。
- ・まじは、～と書いていたけれど、しるべてみたら (じっかんをしたら) ～でわかった。

③ もっと学習したいこと

- ・～がうまくいかなかったから、つぎは、～してみよう。
- ・今日の学習で、○○だとわかったので、～の場面はどうなのかなのめりだい。
- ・友だちが～していた、～という書きでやってみよう。

④ 生活や学習で使いたいこと

- ・今日の学習でわかったことは、～のときにも使えそうだなと思った。
- ・今日の学習で～を、～でやってみよう。

ふりかえり レベルアップカード 5・6年生

名前 ()

① 自分や友だちの考えのよかったところ

- ・自分、～と書いていたけれど、○○さんは、～と書いていて、なるほどと思った。
- ・自分の～という考えが、友だちに伝わってよかった。
- ・○○さんの、～という考えは、自分では気づかなかったもので、教えてもらってよかった。

② 自分の考えが変わったり、 深まったりしたこと

- ・わたし、～と書いていたけれど、○○さんの考えを聞いて、～と書きがかわった。
- ・わたし、～と書いていたけれど、書いてみたら (しるべてみたら) ～でわかった。
- ・自分の～という考えと、○○さんの～という考えを比べてみるべきだった。

③ もっと学習したいこと

- ・～がうまくいかなかったから、次は、～してみよう。
- ・今日の学習で、○○だとわかったので、～の場面はどうなのかなのめりだい。
- ・友だちが～していた、～という書きでやってみよう。

④ 生活や学習で役立てたいこと

- ・今日の学習でわかったことは、～のときにも使えそうだなと思った。
- ・今日の学習で～を、～でやってみよう。

6 全体構想・研究組織

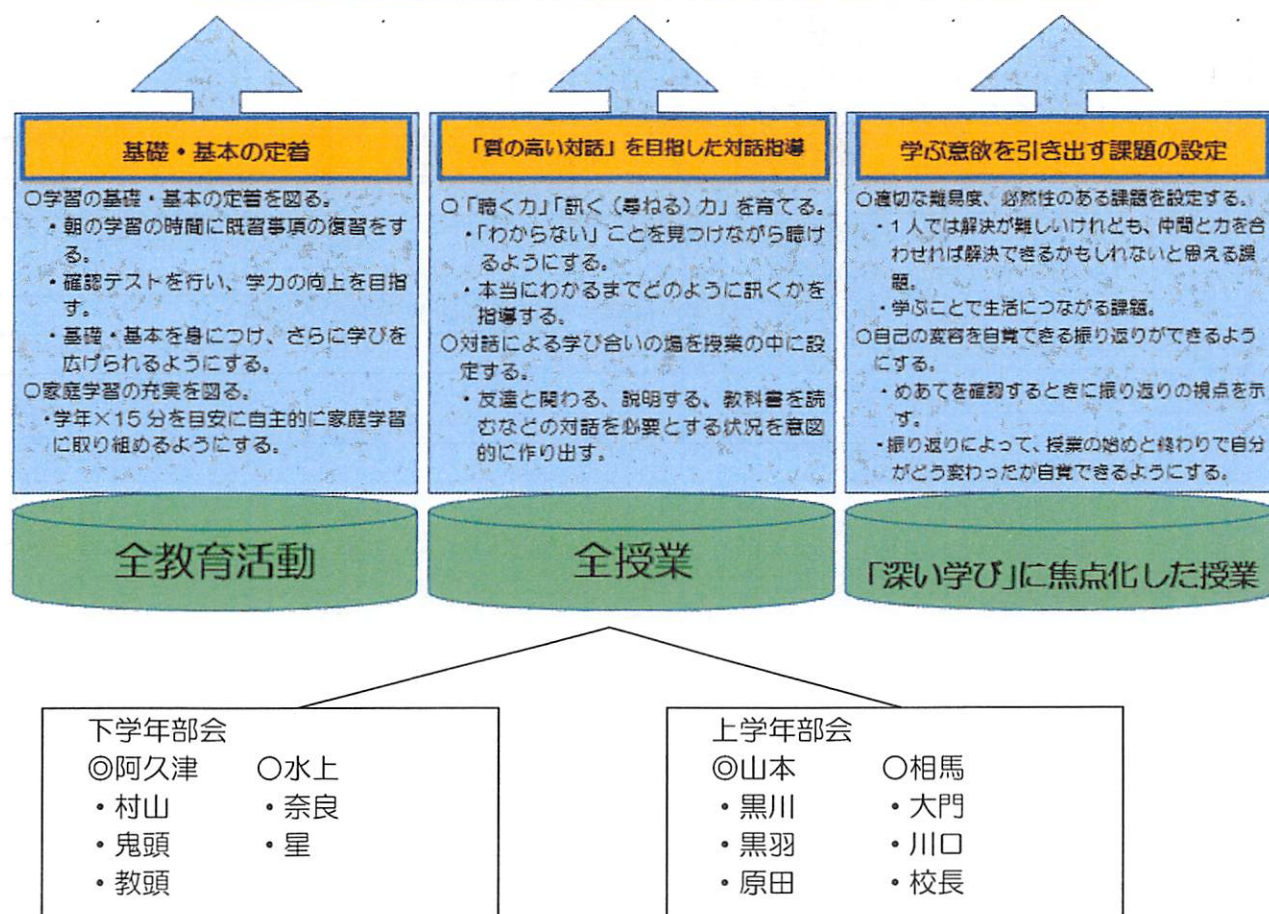
令和3年度 学校課題

日光市立大沢小学校(大沢中学校区小中連携・一貫教育)

《ゴール》

互いに高め合う児童の育成

～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり～



7 仮説検証の視点

- (1) 朝の学習の時間や、家庭学習の充実を図ることで、児童が学習の基礎・基本を身につけることができたか。
- (2) 学習活動の中に対話による学び合いの場を設定することで、児童の「聴く力」「訊く力」を高めることができたか。
- (3) 「学ぶ意欲を引き出す課題」を設定し、児童が振り返りにおいて、自己の変容を言葉で表現できるようになったか。

8 検証の方法

- (1) 学校課題研修会・授業研究会
- (2) 算数到達度テスト結果分析
- (3) 単元テスト結果分析
- (4) アンケート調査結果

9 研究計画

月	内 容
4	
5	5/12 (水) 学校課題研修(研修の進め方)
6	5/31 (月) 授業デザイン検討会
7	6/16 (水) 研究授業 (6-1、4-1阿久津、3-1)
8	
9	9/29 (水) 授業デザイン検討会
10	10/18 (月) 研究授業 (5-1、2-1) 10/25 (月) 授業デザイン検討会
11	11/8 (月) 研究授業 (5-1黒羽、スマイル1)
12	
1	1/17 (月) 授業デザイン検討会 1/31 (月) 研究授業 (4-1、1-1、スマイル2)
2	2/10 (水) 学校課題(成果と課題、次年度の研究推進の方向性)
3	